

# 世界史 A

## 1 歴史年表・歴史地図を利用した授業展開例

< 主題 > 古代における東アジア世界の交流

< 解説 > 年表と地図の縦軸と横軸の双方の視点から歴史の流れをつかむとともに、日本を視点に古代における東アジア世界の交流を理解する。地域や時代を大まかに理解する中から、生徒の興味・関心を高め、課題追究学習のテーマ設定へとつなげる。

## 2 テーマ図（統計地図）を利用した授業展開例

< 主題 > ヨーロッパの世界進出の概観

< 解説 > 先進国と発展途上国の歴史や現代の国際紛争を考える。各国の言語・宗教・経済状況などのデータを利用して生徒自身が統計地図をつくることによって、ヨーロッパによる世界の植民地化の事実を概観し、国際関係（勢力関係）を考えるきっかけとする。

## 3 地域の文化との比較による授業展開例

< 主題 > 農耕民族と遊牧民族の生活の比較を通して、遊牧民族の発展を考察する

< 解説 > 遊牧民族の象徴である「馬」に注目し、日本の「馬」文化と遊牧民の「馬」文化を比較してその相違について考察し、遊牧文化の特徴や生活環境の厳しさや侵略活動や征服活動を行った民族や王朝の歴史を理解する。

## 4 地域の歴史をヒントに国際紛争や平和について考えさせる授業展開例

< 主題 > 第二次世界大戦 - 中国の植民地化（日本の満州進出）と戦争を考える -

< 解説 > 日本を視点に国際紛争（戦争）を考えることを第一目的とした授業。郡上郡から戦前に多くの人々が満蒙開拓のために渡満した事実注目し、戦争が地域の人々の生活文化や歴史に与えた影響を地域素材をもとに考察する。

## 1 歴史年表・歴史地図を利用した授業展開例

教科(科目)	地理歴史(世界史 A)	単元名	諸地域世界と交流圏 - 東アジア - (1時間目 / 4 時間)
本時の主題	古代における東アジア世界の交流		
本時の目標	<p>1 歴史の舞台となる東アジアの地域の構成を理解するため地図を描くことができる。【技能・表現】</p> <p>2 中国王朝の変遷を理解し、年表の作成によって歴史の流れをつかむ。【知識・理解】</p> <p>3 古代における日本と大陸(中国・朝鮮)の交流を把握することにより、当時の国際社会を理解する。【知識・理解】</p> <p>4 日本と大陸(中国・朝鮮)の交流の中で、興味・関心のある事柄を見つけだし、課題追究学習を進める態度を養う。【関心・意欲・態度】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・評価の観点	
<p>東アジア世界の地理的状况を把握する。</p>	<p><b>Question 1</b></p> <p>東アジアにはどのような地域があるのだろうか？ 地図を描いてみよう</p> <p>ここでは前時及び宿題であらかじめ描いてある地図を観察させる。</p> <p><b>Question 2</b></p> <p>10分 東アジア地域の地理的特徴(地形・気候)は何か。</p> <p>モンスーンによる湿潤な気候帯、乾燥気候帯などの相違を大まかに理解する。「南船北馬」の意味を理解する。</p>	<p>地図の中の何を記入するかや、どのような描き方をするかは生徒個人にまかせる。【技】</p> <p>評価方法 机間指導をしながら注目するポイントを聞き出し、他の生徒に紹介し、また、批評(誉める)する。アジアの地理的特徴、日本をめぐる地形や自然条件を地図の上から見つけさせる。</p>	
<p>古代東アジア世界の歴史を大まかに把握する。</p>	<p><b>Question 3</b></p> <p>東アジア世界にはどのような王朝があったのだろうか？ 王朝の変遷略年表(10世紀までの)をつくり、時代の流れと各国の横の関連に注目してみよう。</p> <p>15分 年表はあらかじめ宿題で作成させる。年表は中国・朝鮮・日本に限定し、関連事項(進出や朝貢・交易など)を簡単に確認しながら、中国を中心に東アジアの古代史を大まかにとらえさせる。</p>	<p>年代把握を確実にを行うことと、国と国のつながりを認識させることに心掛ける。【知】</p> <p>評価方法 年表を後で提出させる。</p>	
<p>日本と大陸との交流を把握する。</p>	<p><b>Question 4</b></p> <p>古代東アジア世界は日本とはどのような関連があったのだろうか？ 東アジア世界の各時代の歴史地図から隣国との交流を理解しよう。</p> <p>2世紀・3世紀・4世紀・5世紀・7世紀の歴史地図から、日本と各地域間の交流の様子へとつなげる。 事前に作成させた地図を確認</p> <p>日本との交流の具体例を発問。 その後、板書を使いながらまとめる。 ・パターン1：中国の正史から分かる大陸と日本との交流 『漢書』『後漢書』『魏志』『宋書』『隋書』 漢委奴国王、邪馬台国、倭の五王、遣隋使など ・パターン2：大陸(中国・朝鮮)から伝来した文化 稲・漢字・金属器・仏教・儒教・医学 美術・工芸・騎馬文化 など ・パターン3：4・5世紀における朝鮮半島南部との関係</p> <p>45分 全てのパターンを提示するのではなく、生徒の発言に沿って時間の範囲内で取り上げる。足りない分は後でプリント等で補足する。</p>	<p>各々の世紀がどのような世紀かを理解させながら進める。</p> <p>古代社会における日本と大陸との相互のかかわりを理解させる。【知】</p> <p>評価方法 交流史の例を教師側が提示する前に、どのような交流があったかを発問、挙手を促し発表させる。</p>	
<p>テーマ設定をして調べ学習に導く。</p>	<p><b>Question 5</b></p> <p>日本と大陸の交流でどんなことに興味がありますか？ 興味・関心のあるテーマを探し、調べてみよう。</p> <p>50分 日本と大陸(中国・朝鮮)の交流の中で、興味・関心のある事柄を見つけだし、課題追究学習を行う。</p>	<p>自分の趣味や・将来の希望などに関連したものを探させる。【関】</p> <p>評価方法 提出した課題を評価。</p>	

この授業事例では東アジア世界の学習の土台として、東アジア地域の地理的特色と時代の流れを概観することに主眼をおき、大まかな理解の中から生徒の興味・関心を引き出すことを考えた。

地図や歴史地図を描くことで東アジア世界の中の日本の位置を理解させ、日本と隣国の交流の具体的事例を見つけたことで隣国との交流の深さを強調し、中国を中心とする高度な文化が日本など周辺諸国に大きな影響を及ぼした事を理解させ、アジアに関する理解、さらには、国際理解につなげることを意図した。

また、東アジア全体への関心を高め、生徒自らがテーマを選んで課題追究学習を実施できるように、テーマの選択を行わせた。

世界史Aの授業を構成するにあたっては、全体的には、世界史Aの目標である「国際理解」を意識し、どの地域に対しても偏見のない歴史観や他国文化を尊重する姿勢を養うことが重要と考える。特に、「日本の高校生が学ぶ」という観点を重視して、学習指導要領改訂の趣旨の一つである「日本が欠けた世界史にならないような構成」を実現するため、アジアの中の一員であることを古代社会の交流を通して感じさせたいと考えた。

単元の計画

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1 古代における東アジア世界の交流    | 1時間(本時) |
| 2 東アジア世界の形成と思想       | 1時間     |
| 3 東アジア海域世界と日本        | 1時間     |
| 4 東アジア世界に関する課題追究学習発表 | 1時間     |

教科書の順序的には、東アジア世界のあと各地域世界の学習が続くが、この計画では、項目選択学習を行う「ユーラシアの交流圏」の中から、「東アジア海域世界とユーラシア」を選択し、東アジア世界の学習に続けて、まとまりを持たせている。

< 生徒が関心をもって設定したテーマ >

事 項	内容・理由	進 路
科学	高級官僚の試験として興味を持った。問題の内容や難易度、受験勉強、そして給料などについて	公務員
万里の長城	万里の長城はどうやって造ったのか。	建築系
医学の伝来	大陸から日本への医学(医術)の伝来	医療系
言語の誕生	人類最初の言語はどんなものだったのか。	外国語学部
運河建設	隋時代の運河の建設はどのように行われたのか。	建設関係
国際交流	遣隋・唐使時代のコミュニケーションはどのようにしてとったのか	外国語学部
巨大墓の建設	殷 や兵馬俑また日本の古墳の造り方	建設関係

は実際に授業でプレゼンテーションソフトを使い発表した。

総合学科設置校である本校の生徒の進路との関係でテーマを選ばせると、比較的具体性のあるテーマが設定された。

## 2 テーマ図（統計地図）を利用した授業展開例

教科(科目)	世界史 A	単元名	一体化する世界 - ヨーロッパの進出とアジア - (1 時間目 / 5 時)
本時の主題	ヨーロッパの世界進出の概観		
本時の目標	1 地理的な情報と手法（統計資料と統計分布図）を用いて、世界の成り立ちや文化についての課題を解決し ようとすることができる。 【関心・意欲・態度】 2 自ら作成した資料から、歴史的背景や問題点を導き出し、近現代における国際関係（勢力関係）の概略 や、現代世界の諸問題が歴史的に形成されてきたことを理解し、それを発表する。 【技能・表現】		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
資料から特定の情報を読み取る。       5分	<b>Question 1</b> 世界の国々の成り立ちや文化を知ろう。  班ごとにテーマを設定 A 班 近現代の歴史の中で日本や欧米列強等の植民地となった歴史を持つ国について、その宗主国を調べ、世界のどのくらいの国々が植民地となったことがあるかを理解する。 B 班 過去に植民地となった歴史のある国のうち、植民地とされた年（年代）を調べ、いつ頃植民地化が進んだかを理解する。 C 班 過去に植民地となった歴史のある国の独立の年（年代）を調べ、植民地の独立の年代がいつ頃であるかを理解する。 D 班 各国の主な宗教を調べ、世界の宗教の分布を理解する。 E 班 各国の主な使用言語を調べ、世界にはどの程度同じ言語を使っている人の分布があるかを理解する。 F 班 各国の一人あたりの G N P を調べ、世界の国々の経済格差を知る。（円換算）  参考資料 『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』『 i m i d a s 』の付録や地図帳 以上長期休暇の宿題	全ての国を自分で探すことを通して知らない国の多さに驚かせるとともに情報の読みとりに興味を持たせる。  【関】 評価方法 授業後プリントを提出させる。	
情報の形を変えることで違った情報を導き出す。       10分	<b>Question 2</b> で作成した表をもとに、世界地図にデータを置き換えてみよう。（統計地図の作成）  班ごとにテーマを設定 A 班 白世界地図に、宗主国別に色分けする。（分布図） B 班 白世界地図に植民地となった世紀ごとに色分けする。（分布図） C 班 白世界地図に、独立した世紀ごとに色分けする。（分布図） D 班 白世界地図に、世界の主な宗教別に色分けする。（分布図） E 班 白世界地図に、世界の主な使用言語別に色分けする。（分布図） F 班 白世界地図に、G N P の額別に色分けする。（階級区分図） 以上長期休暇の宿題	数字のデータをビジュアルデータに置き換える手法と意味を理解させる。	
得られた情報の意味を考え、なんらかの答えを導き出す。	<b>Question 3</b> 作成した表と地図から解ることを考え、班単位で意見を出し合い、統一意見を導き出す。  予想される答え A 班 ヨーロッパの国が世界の多くの国を植民地にしていたことがよくわかる。 B 班 時代（世紀）によって植民地化される地域がちがう。 発展：それは何故か。 C 班 アジア・アフリカは 2 0 世紀に独立した国が多い南米は 1 9 世紀が多い。 発展：それは何故か。 D 班 世界 3 大宗教と呼ばれている宗教が世界の	統計地図から分かることと、授業や生活の中で知り得たことを考えあわせて答えを出す。	

注 1

注 2

注 3

<p>35分</p> <p>45分 A～F全ての情報を体系的に結びつけ現代世界の構造を考える。</p> <p>50分</p>	<p>部分で信仰されている 発展：それは何故か。 E 班 英語圏・スペイン語圏・フランス語圏が多い。 F 班 南北問題がわかる。 発展：それは何故か。</p> <p>教 6つの調査結果から出た各班の結果を板書する</p> <p>Question 4</p> <p>各調査で得られた結果すべてを総合的に考察し、どのようなことが言えるのか、各班で討論してみよう。発表しよう。</p> <p>導き出したい事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15世紀以降世界各地は、ヨーロッパの世界進出によって政治的・経済的・文化的に強く影響を受けている。植民地だった地域にはヨーロッパの言語・宗教・社会体制が持ち込まれ、経済的には搾取により停滞した。19・20世紀に独立を果たしたが今なおその影響下から脱しきれていない。</li> <li>・貧富の差は先進国と発展途上国という見方だけではなく、先進キリスト教信仰圏とイスラム教信仰圏の経済格差、あるいは、ヨーロッパ発の民主主義国とイスラム世界との経済格差、などという見方もできる。</li> <li>・ヨーロッパの世界進出の歴史が、現在の国際問題の要因になっている。</li> </ul> <p>など</p> <p>教 生徒の意見と教師側の意図を融合させてまとめる</p>	<p>評価方法 正解・不正解にはこだわらず自信を持って発表できるように指導する。</p> <p>【技】</p> <p>注4 今回調査し考察して得られた結果と近現代世界史および国際社会の構造とを結びつけてまとめる。</p>
--	---	--

世界史では、「生きた教材」や「身近な教材」を取り扱うのは、日本史ほどは容易ではない。導入方法として身近な道具や物を使用することも可能であるが、ここでは、「生きた教材」や「身近な教材」を使用し、できるだけ体系的に歴史や世界をとらえさせる授業の実現を意図した。

2002年に起こった「同時多発テロ」やその後の「国際紛争」を生徒たちはマスメディアを通して関心をもって見ていると考えられるので、これを「生きた教材」や「身近な教材」に相当する「身近な話題」として取り上げたい。また、それらの出来事をその背景などとあわせて細かく調べ考察することもできるが、ここではあくまでも概観させることによって現代世界の構造を見いだしたい。

現在の世界の形成は15世紀から始まったヨーロッパの世界進出（支配）によって開始された。そのことを生徒たちには6つの角度から導き出し、その歴史（ヨーロッパの植民地支配及び現代世界における欧米の強い影響力）によって生じている問題に気付かせたい。

また、この実践はコンピュータを活用できると思われる。細かいデータ入力はもちろん、そこからの地図へのデータの変換もコンピュータを利用できればよいと思われ、教師側がまとめるのにも大変便利で機能的だと考える。今後の課題にしたい。（例；Excelを使った情報整理、Power Pointを使った発表など）

<指導上のポイントと考察、生徒の様子、補足>

注1 生徒がまだ何をやっているのか認識できていないかもしれないので、この段階では自分の知らない国がこんなにもあることを認識させ、世界の大きさや複雑さを実感させたい。また、国の数が190カ国あるので、生徒がいやにならないようにグループの中で作業分担をさせる。実際授業中には無理なので連休や長期休業の際の宿題にして置いた方がよい。今回は、冬休みの宿題とした。  
生徒が使用した資料は、『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』『imidas』や地図帳である。

注2 数字のデータをテーマ図（主題図）化して答えを導き出しやすくしたい。ただ、テーマ図といっても地理の授業ではなくその知識はないので、数字によるデータを地図上に置き換えることで読み取りやすくした。情報を見やすく変化させることで多くの現象をとらえることができる。生徒たちはこの過程をすごく楽しんで取り組み、作業途中の段階で気付いたことを口にしていった。生徒が作製した地図は【資料1】

注3 作成した地図から読みとれる事柄をまとめたら、歴史の中でそのことがどんな意味を持っているのか、或いは何故そのような事実が起こったのかを歴史の中にその理由を見つける。生徒たちは、意外と興味を持ち考え、興味深い答えを導き出した。生徒が地図を読みとり更にそれを考察した結果は【資料2】

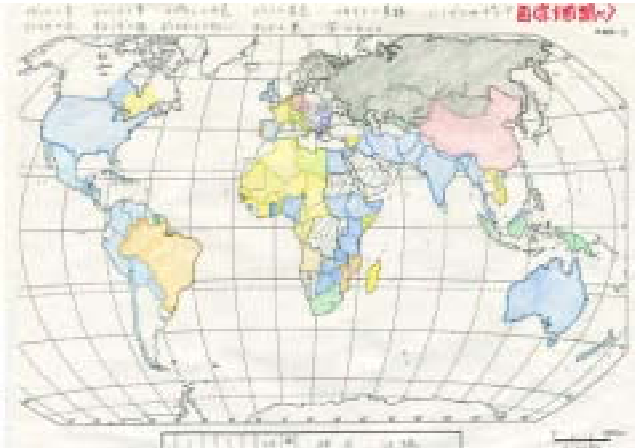
注4 実際に生徒は様々な意見を出した。見当違いのものもあったが、興味深いものもあった。

- 単元の計画 一体化する世界 ヨーロッパの進出とアジア
- 1. ヨーロッパの世界進出と概観 1時間（本時）
  - 2. 西アジア社会の変動 1時間
  - 3. インド・東南アジアの植民地化 1時間
  - 4. 東アジアの変動（アヘン戦争～日清戦争） 2時間

【資料 1】

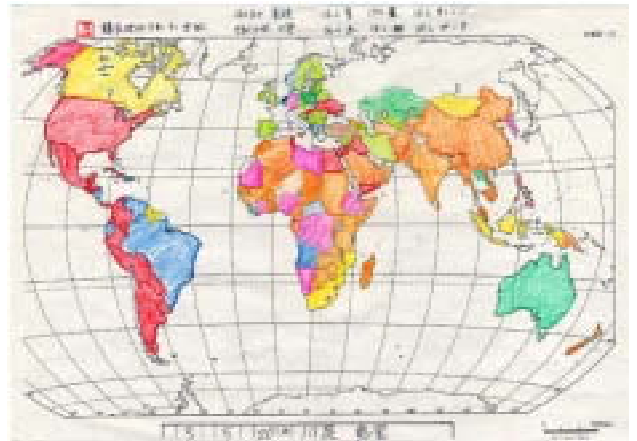
生徒が作成した統計地図

A班



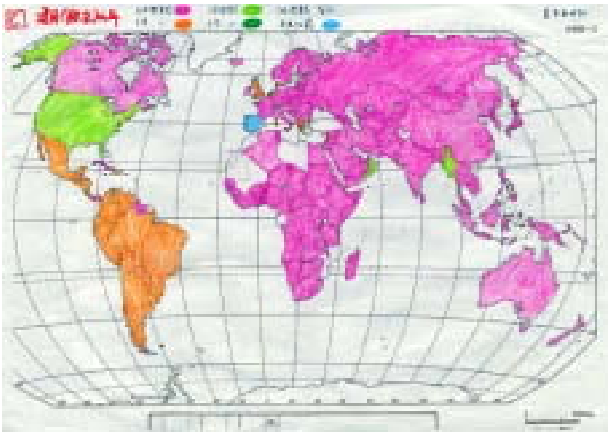
【植民地の宗主国を調べた生徒の分布図】

B班



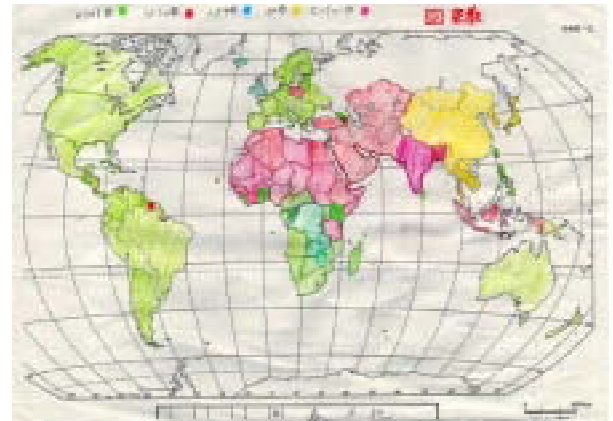
【植民地化の年代（世紀）を調べた生徒の分布図】

C班



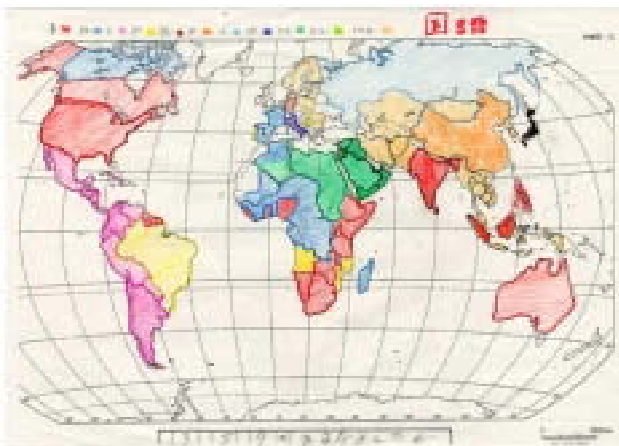
【独立の年代（世紀）を調べた生徒の分布図】

D班



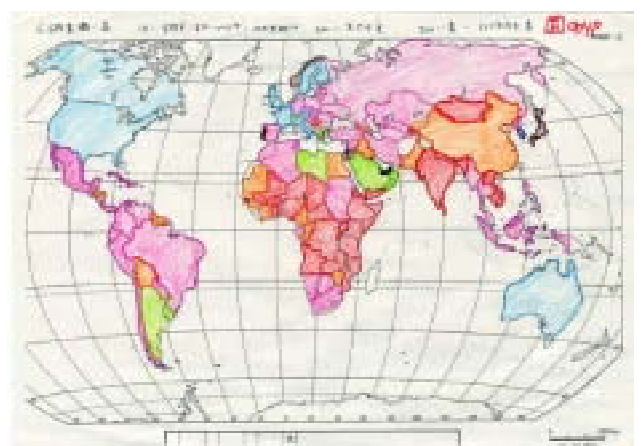
【各国の主な宗教を調べた生徒の分布図】

E班



【各国の主要な言語を調べた生徒の分布図】

F班



【各国の一人あたりのG N Pを調べた生徒の分布図】

## 【資料 2】

## 生徒による考察

		テーマごとにまとめた地図から読みとれること	で読み取ったことから考えられること
A班	近現代の歴史の中でどのくらいの国が植民地となったのか	1 西アジア・北米はイギリス、西アフリカはフランス、中南米はスペインが支配していた。	大航海時代のヨーロッパの世界進出から始まったことが分かる。
		2 地域ごとに被植民地は宗主国を同じくしている国が多い。	時代時代で力を持っていた国が異なるのでその影響を地域ごとに受けている。
		3 世界全体で見ても植民地経験のない国はとても少ない。	ヨーロッパ諸国が世界各地を植民地支配した。
B班	いつ植民地化が進んだのか	1 アフリカ大陸の多くは19世紀に植民地化されている。	19世紀は産業革命から資本主義が発達し、植民地化が進んだ時期に当たる。
		2 アメリカ大陸の多くは16世紀に植民地化されている。	16世紀は大航海時代の全盛期で、特にスペインがアメリカ大陸の諸文明を滅ぼして進出した。
		3 アジア大陸の多くは19世紀に植民地化されている。	19世紀は産業革命から資本主義が発達し、植民地化が進んだ時期に当たる。
C班	植民地国が独立したのはいつ	1 アジア・アフリカ大陸のほとんどは20世紀に独立している。	20世紀は、第二次世界大戦によりヨーロッパ列強の政治的・経済的な力が低下したため、アジアやアフリカの植民地が独立した。
		2 ラテンアメリカの国々は19世紀に独立している。	19世紀のラテンアメリカの独立はアメリカが週国の独立やフランス革命の影響を受けて起こった。
		3	
D班	世界的な宗教の分布はどうなっているのか	1 世界全体でキリスト教が一番広がっていると思われる。	ヨーロッパ人が広めた。
		2 ヨーロッパ・アメリカ大陸・南アフリカ・オセアニアではキリスト教、北アフリカや西アジアではイスラム教	北アフリカや西アジアにはイスラム教が強かったのでキリスト教は波及しなかった。
		3 ユダヤ教は一国しかない。	ユダヤ教の特質からイスラエルだけ。
E班	世界にはどの程度同じ言語を使っている人達(国)がいるのか	1 英語圏が多い。その次はスペイン語・フランス語	ヨーロッパの国が武力をとめない植民地を支配した結果である。
		2 同じ言語を使用する国が世界的にまとまっている。	時代時代で力を持っていた国が異なるのでその影響を地域ごとに受けている。
		3 ヨーロッパの国の言語が世界に広がっている。特に植民地に。	
F班	一人あたりのGNPを調べて世界の国々の経済格差を知る	1 南北問題がはっきり分かる。(北の先進資本主義国と南の発展途上国)	被植民地国は貧しい。
		2 中近東は豊か。	中近東で石油が出る国は豊か。
		3	

### 3 地域の文化との比較による授業展開例

教科(科目)	世界史 A	単元名	ユーラシアの交流圏...遊牧社会の膨張とユーラシア... (2時間目 / 4時)
本時の主題	農耕民族と遊牧民族の生活の比較をとおして、遊牧民族の発展を考察する		
本時の目標	<p>郡上郡の馬に関連する話題から、地域と馬についての関心・意欲を高める。 【関心・意欲・態度】</p> <p>馬をキーワードに日本の農耕文化についての理解を深め、遊牧民の文化との比較から二つの文化の相違について考える。 【思考・判断】</p> <p>遊牧民の生活から彼らが何故中国の王朝を侵略し、また、東西交易路を支配しようとしたかを思考し、その理由を理解する。また、内陸アジア世界が東西交流にとって果たした役割を考え、遊牧民の歴史について理解する。 【知識・理解】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なじみのない馬と地域の歴史とをつなげる 5分</li> </ul>	<p>日本での馬の存在を考える .....我々の住む地域は馬とは関係のない地域なのか？ 郡上の馬生産の歴史 郡上踊り『春駒』(はるこま)は何の歌？ 「毛付け馬市」(けつけうまいち)って何？ 明宝村の「磨墨公園」(するすみ)の「磨墨像」は何？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ については事前に宿題として提示しておき、自分の住む地域の村・町史やお年寄りに聞くなど史的情報を集めておく。【関】</li> <li>評価方法 調査結果の提出。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人にとっても馬が生活に密着していたことを理解させる 15分</li> </ul>	<p><b>Question 1</b> _____</p> <p>前近代において、郡上の民にとって馬はどのような存在だったのか？</p> <p>参考資料を読んで答えをまとめる。 (資料：『明宝村史』『図説郡上の歴史』『手作りの資料館』から抜粋) 郡上での馬の役割を確認することで日本での馬の役割を考える。(農耕社会での馬の役割)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読解 【思】</li> <li>評価方法 挙手による発表。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西交流の中間にあった民族や地域の様子を知る 25分</li> </ul>	<p>草原・オアシス地帯の様子 ・居住地域を地図で調べて発表 (現在の国名・地名で発表) ・騎馬文化をひろめた民族について図表で確認 ・草原・オアシス地帯に勢力を形成した民族を図表で確認</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬を最大限に利用することで生活を成り立たせていたことを理解する 35分</li> </ul>	<p><b>Question 2</b> _____</p> <p>遊牧民にとって馬の役割は？</p> <p>班ごとに考える 日本人にとっての馬の存在と比較する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班内で意見をまとめ発表。【思】</li> <li>評価方法 班ごとの発表。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルクロードなど交易ルートが東西に大きく影響を与えたことを理解する 40分</li> </ul>	<p><b>Question 3</b> _____</p> <p>遊牧民は何故文明圏や東西交易ルートへの侵略を行ったのか？</p> <p>班ごとに仮説を立てる 遊牧民の厳しい生活文化を紹介する。参考文献『騎馬民族国家』江上波夫</p> <p>遊牧民の文明圏への侵略 ・中国文明への北方異民族の侵略 (図表で確認) ・征服王朝の形成 (板書で説明) ・モンゴル帝国の成立 (板書で説明)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班内で意見をまとめ、発表させる。 【知】</li> <li>評価方法 班ごとの発表</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ 50分</li> </ul>	<p><b>Question 4</b> _____</p> <p>東西交易ルートによって運ばれた文物・習慣は？</p> <p>班ごとに考える</p> <p>まとめ ・東西交流という観点から遊牧民や東西交易ルート(ステップ・シルクロード)が果たした意義を考察する。 ・遊牧民による征服王朝が形成された(特にモンゴル帝国)ことによるユーラシア大陸の東西に与えた影響を解説する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の意見をプリントに書き、班内で意見をまとめる。 【知】</li> <li>評価方法 個人の意見をプリントに書き、授業後に提出させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時まで</li> </ul>	<p>次時までquestion 3・4についての調査をして、各班別に発表。</p>		



< 指導上のポイントと考察、生徒の様子、補足 >

新学習指導要領には、「ユーラシアの交流圏」では(ア)海域世界の成長とユーラシア、(イ)遊牧社会の膨張とユーラシア、(ウ)地中海海域とユーラシア、(エ)東アジア海域世界とユーラシアの中から二つ程度選択して交流の具体的様相を把握させる、とあり、また、「日本の高校生の学ぶ世界史...」或いは「世界の中の日本をとらえさせる」などと記されている。

今回は、(イ)と(エ)を選択し、ユーラシアの東西交流を日本人の歴史(自分たちの歴史)と関連させることで世界史学習の導入部分と位置づける。本時では、内陸アジアの交流に利用された交通手段である「馬」を足がかりに、遊牧社会の特徴と草原の道・オアシスの道などによる東西交流の様子を捉え、なぜ遊牧民が交易ルートや文明圏への侵略を繰り返したかや、彼らが築いた征服王朝がユーラシアの東西に与えた影響を考えさせたい。

その際、導入の段階で地域の歴史の中での人々の暮らしと農耕社会の馬の役割を考え、遊牧社会の馬の役割との比較をすることで、遊牧社会の生活や文化・国家形成までを生徒たちに考えさせる。

進め方としては、質問を投げかけて、それに対し、班毎に仮説を立てて話し合い、後でそれを班毎で調査し答えを導き出す。

< 単元の計画 > ユーラシアの交流圏

- 1 時間目：ユーラシアの4つの交流圏についての概要
- 2 時間目：遊牧社会の膨張とユーラシア...農耕民族と遊牧民の生活の比較から... (本時)
- 3 時間目：遊牧民の行動と東西交易ルートによって運ばれたものについて(Q1・Q2)の発表
- 4 時間目：東アジア海域とユーラシア...日本と中国・朝鮮の文化交流から...  
ユーラシアの交流圏のまとめ

- 1 村史・町史を読んだり、お年寄りから昔の郡上の様子を聞いて、農村社会での馬とのかかわり合いを知るとともに、他地域と離れた山間の地域の交流の実態を知る。このとき、なるべく聞き取り調査だけに終わらないように、資・史料による裏付けをさせる。
- 2 地図帳を使い、草原地帯・オアシス地帯が現在でいうと、どの国・どの地域に当たるかを調べてプリントにまとめる。

参考文献

- ・『騎馬民族国家』江上波夫(中公文庫)
- ・『図説郡上の歴史』岐阜県の歴史シリーズ(郷土出版社)
- ・『手作りの資料館 円空のふるさと美並村』(美並村教育委員会)
- ・『無形文化財 郡上踊り』(八幡町郡上踊り保存会)



毛付馬市大手芝の図(八幡町塩谷家蔵)

【資料編】

郡上の民と馬 『手作りの資料館』から

美並村の農家の多くは馬を飼っていた。明治5年の「村明細」によると、戸数818戸で馬が380頭になっている。農耕用・運搬(馬車)用などに使われており、家族同様であった。厩は家の入り口にあり、くぐり戸を開けて中にはいると、最初に出会うのが馬であった。

「春駒」の一節 - 郡上は馬どこあの磨墨 『郡上踊り』から  
(前略)

郡上は馬どこあの磨墨 名馬出したも気良の里  
馬は三歳馬方二十歳 着付たつづらの品の良さ  
(後略)

郡上踊りの名曲「春駒」は元々「焼き鯖」という曲だったものを明治時代に全国民謡大会に出場する際に「春駒」と改めた。その歌詞の中で、「郡上馬どこあの磨墨の...」とある。『平家物語の宇治川の先陣争い』に出てくる磨墨が明宝村の産だとされているが、それを示す明確な史料はない。

毛付け 『図説 郡上の歴史』から

一般に毛付けといい土用末日に行われる年中行事である。毛付け馬市の期限は明らかではないが遠藤氏の頃から行われていたという。遠藤氏は畜産を奨励して年一回農民に夏の土用六日目に二歳駒を城の一の門前の芝野へつれてくるように回状を持って触れた。

芝野へ集まった二歳駒は御厩方によって見分を受け、よい馬はたてがみの一部を切って印して一の門内へ入れ、さらにこの中からよい馬を選び出して必要数を徴発した。徴発した馬の馬主には高価な代償を与えたのであったが、金森氏の代になるとほとんど無償となり、藩士までがわずかな金で馬を取り上げるようになった。

徴発漏れの馬は翌日馬市を開いて競売をした。たてがみを切られた馬は特に高価であったという。他領から商人・農民が集まり賑わったという。昭和初期まで開かれ、見せ物などの興業もあり、たいそう賑わった。



●馬は家族の一員であった

### 4 地域の歴史をヒントに国際紛争や平和について考えさせる授業展開例

教科(科目)	世界史 A	単元名	二つの世界戦争と平和 ( 7 時間目 / 7 時 )
本時の主題	第二次世界大戦 中国の植民地化 ( 日本の満州進出 ) と戦争を考える		
本時の目標	<p>1 郡上郡の人々が満州開拓団に数多く参加した事実を理解し、日本の満州進出の状況がそのようなものであったかを考える。【思考・判断】</p> <p>2 第二次世界大戦の末期に、後に戦勝国となる国々によって戦後の国際秩序の枠組みが形成されたことを理解する。【知識・理解】</p> <p>3 国家の海外発展 ( 植民地進出 ) が、末端の人々の人生や生命に多大な影響を及ぼし、また、戦争による敗北が生んだ悲劇や進出に及んだ事情を理解し、現代社会における日本や日本人の役割を考える。【思考・判断】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・「郡上満州開拓団」から、植民地化が進む中国の様子と、日本と中国の関係を考え、理解するとともに、当時の日本が海外発展しようとした理由の一端を考察する。</p> <p>15分 ( 経過時間 )</p>	<p>満州開拓団が持つ意味の考察と理解。( )</p> <p>導入：郡上高校の校訓「凌霜」が決められるときのエピソードを紹介</p> <p><b>Question 1</b> 多数の郡上郡民が、なぜ満州開拓団に参加したのか。その意味は？ また、「分村」「分郡」とはどういう意味を持つのか？</p> <p>…導き出させる答え A：「国策としての開拓」 日本の海外進出が国の政策として実施されていたことを理解する。 B：「耕地面積が少ない、二・三男の働き口」 開拓団は、生活の向上・雇用の創出も大きな目的であったことを理解し、そこから当時の日本経済と食糧事情の悪さを判断する。 C：「分郡」「分村」ということは、満州は日本の国内(領土)として考えていた。</p>	<p>Q1について、郡内の町村史を読ませ、興味・関心を引き出しながら、その中に書かれている正解を探させる。【思】 評価方法 発問・挙手・発表</p>	
<p>・「開拓団員の手記」から、宗主国と被植民地の立場、そして、その逆転が意味する事柄を考えさせる。</p> <p>25分</p>	<p>敗戦によって勝者と敗者が逆転することの理解。( )</p> <p>終戦によって一変する日本の国際的立場の理解。( )</p> <p><b>Question 2</b> 「一俵5円だった船賃が100円」になったり、「満人の子どもたちが唾を吐きかけ」たりしたのはなぜか。その意味は？</p> <p>中国において日本人は、敗戦により「支配者から被支配者」または「尊重される側から蔑まれる側」に立たされたことを感じ、それは命の危険を生み出したことを知る。 ひいては、大戦後の日本の国際的立場も逆転することに気付く。</p>	<p>Q2については、発問し、自発的に考え、中国の人々の心情を推測し発表する。【思】 評価方法 発問・挙手・発表</p>	
<p>・戦争の過程で、戦後の国際秩序の青写真がつけられたことを理解する。</p> <p>40分</p>	<p>ソ連軍による満州・朝鮮及び北方領土占領が持つ意味の理解。</p> <p>…「開拓団員の手記」から、大戦末期ソ連軍が南下したことを理解する。</p> <p><b>Question 3</b> ( ) なぜ、ソ連は日ソ中立条約を無視して参戦したのか？</p> <p>ヤルタ協定(対日秘密協定)でソ連の対日参戦と、千島・南樺太領有を戦勝国側で決められていた。</p> <p><b>発展</b> このヤルタ会談での話し合いが、戦後の国際秩序の構築につながることを理解するとともに、ソ連の中国・朝鮮への出兵が、戦後の冷戦構造につながっていることを知る。</p>	<p>Q3については、ヤルタ会談の資料から答えを誘導する。</p> <p>日ソ中立条約及びヤルタ会談(協定)にて確認。</p> <p><b>発展</b>について、ソ連の参戦の動きが、アメリカの「原爆投下」や日本の敗戦につながったことを考える。【知】</p>	

<p>・まとめ …この単元(6時間)の学習を終えて。  50分・</p>	<p><b>Question 4</b> ( ) 21世紀に生きる人間(日本人)として、戦争や平和について考え、日本(日本人)の役割について思うところを述べてみよう。  この時間内では日本のとった行為(中国の植民地化)についての意見を求める。  Q4について、自分の意見を文章にまとめさせる。</p>	<p>については、答えを示さず、生徒が感じたまま、考えたままを発表させる。【思】 評価方法 発問・挙手・発表  については、のクラスメイトの意見を参考にしながら、自分の考えを小論文にまとめ、宿題にし、次時に提出させる。【思】 評価方法 小論文の提出 3段階で評価</p>
--	--	---

<指導上のポイントと考察>

新学習指導要領の基本的性格や目標に書かれているように、「日本人にとっての世界史」という観点に立ってこの授業を考えた。特に、前回同様「郡上を起点に世界史を観る」というテーマから、自分たちの地域の歴史を辿ることで、世界史や国際社会の在り方を理解することにつなげたい。

今回の単元では「現代世界と日本」の「イ：二つの世界戦争と平和」の最終段階として、位置づけた。ここでは、戦争が起こる一つの原因が各国の海外進出(発展)とそれによる他国・他民族との対立にあることから、中国における列強の進出と対立を、日本の満州進出を題材に捉えようとした。また、日本がなぜ、植民地政策を推進したのか、そこで日本人はなにをしたのか、それが中国など植民地となった国の人々にとってはどうであったのか、など植民地進出による両国国民が受けた苦しみを理解したい。

後半は、戦後の国際秩序(戦勝国による国際秩序)や冷戦構造が、大戦の過程で生じて来る事に気付かせ、それが日本への原爆使用や占領政策に繋がっていることへと発展させる。

最後に小論文を書かせるが、単に感想文に終わらないように最近の国際情勢や日本の置かれている立場をふまえて自分の考えを述べさせる。また、小論文を書かせることで自分の考えをまとめたり表現したりする力を付けさせたい。

以上のことから戦争と平和の意義について生徒とともに考えたいと思う。

<単元の計画> 二つの世界大戦

- ・ 第一次世界大戦 1時間
- ・ ロシア革命と第一次世界大戦の結果 1時間
- ・ ヴェルサイユ体制 1時間
- ・ 民族主義の新展開 1時間
- ・ ファシズムの台頭 1時間
- ・ 第二次世界大戦 1時間
- ・ 中国の植民地化と戦争を考える 1時間

【資料編】

ア：郡上高校校訓「凌霜」選考時のエピソード  
- 郡上高校校訓「凌霜」 -

郡上高校の校訓である「凌霜」と、いうことは、次のような歴史を持つことばである。

- ・ 戊辰戦争の時、郡上(青山)藩は表向きは官軍側についたが、万が一のために裏で旧幕府軍の援軍として、江戸藩邸より小隊を派遣した。これを「凌霜隊」という。
- ・ 戦時中の満州開拓団の養成施設、「凌霜塾」の名としても使われた。

郡上高校の校訓「凌霜」を選考するときに、「郡民が辛酸をなめることになった満州開拓の推進の中心的存在だった『凌霜塾』の名は使わない方がいい」という意見があった。

(郡上高校勤続24年の教員より聞く)



- 「凌霜塾」について -

昭和 7 年(1932)に満州国の建国宣言が行われ、昭和 9 年には満州国に帝政が実施され、皇位には清朝後裔の溥儀が就いた。日本政府はこの頃より、満州殖産政策を推進し、殊に昭和12年から20年間に百万戸・5 百万人の大量開拓移民計画を樹立して実施に着手した。

昭和恐慌後の農山村は窮乏がその極に達していた。農山村の窮乏の根本的な原因は、は経営面積の過少(50~70a)であったから、国策としての満州開拓は、満州の広大な広野に営農ができるという点で青少年に夢を与えるものであった。

郡上郡青年団では、昭和 9 年皇太子殿下御降誕を記念して、修養道場「凌霜塾堂」の建設を発願し、.....昭和 11 年には研修道場「積翠寮」も完成した。「拝み・働き・学ぶ」という楠章凌霜塾頭の提唱による労作教育は各界に共感を呼び、.....(『郡上郡の歴史』より)

イ：郡上郡民による満州開拓団

『大和町史』第 9 節 満州移民

満州開拓の始まり

満州事変の起きた翌年の昭和 7 年(1932)満州国が建国され、この年から日本の満州開拓移民の入植が始まった。その目的は、(1)農村の二・三男対策、(2)日本軍の食糧確保、(3)大陸最北前線の軍事的防備などであった。...日本政府は、はじめ 5 カ年に 2 万戸移民の計画を立てたが、昭和 1 2 年(1937)以降 2 0 カ年で 1 0 0 万戸という大計画を立てた。そして、政府より扱いの集団開拓民と、民間の行う自由開拓民に分け、...

岐阜県の満州開拓移民

岐阜県は全県の 8 割が山間地であり、耕地面積は少なく、昭和の初め頃、1 戸当たりの平均耕作面積は平野部で約 7 反(70a)、山間部では 5 反(50a)未満であった。昭和11年に満州開拓移民が重要国策とされてからは、耕作面積の少ない岐阜県では特に奨励され、国庫補助による分村移民が推進された。また、昭和 1 4 年には、県に移植民専任職員がおかれた。岐阜県の満州開拓移民送り出し人員は、1 万 230 人で、全国都道府県中 7 番目である。ちなみに一番多い長野県は 3 万 7 8 5 9 人で、岐阜県内で多く送り出しているのは、第一に郡上郡、次に加茂郡、その他山間農村地帯の恵那郡や飛騨地方などであった。

郡上郡の満州開拓移民

郡上郡の開拓移民は、県内で最も多かった。その理由は

- (1)郡上郡は耕地面積が少ない。
  - (2)二・三男の働き口がない。
  - (3)郡出身の指導者が積極的に移民活動を奨励した。
  - (4)郡民性が従順であり、国策に協力したことなどが考えられる。
- .....郡上郡全体の移民数は 3 1 9 6 人で、...

【郡上郡開拓団】

送りだし年度	開 拓 団 名 称	母 村	人 数
昭和 1 4	公主嶺(山路)	奥明方村	232 人
1 5	琿春高鷲	高鷲村	646 人
1 5	郡上郡	弥富村・和良村	825 人
1 6	琿春和良村	和良村	304 人
1 8	瑞 穂	山田村・弥富村・西川村	111 人
1 9	西和良村	西和良村	48 人
1 9	東 村	東村	129 人
1 9	積 翠	八幡町	303 人
1 9	興 和	相生村・嵩田村	290 人
1 9	秀 真	北濃村・牛道村	115 人
合計			3003 人

【大和町満州開拓犠牲者】

字 名	犠 牲 者 数	字 名	犠 牲 者 数
徳永	1	口大間見	5
川辺	14	奥大間見	5
口神路	1	小間見	5
中神路	3	福田	3
牧	3	洞口	12
上古道	6	内ヶ谷	7
下栗須	14	有坂	5
上栗須	6	その他	11
剣	34	合 計	146
万場	7		

開拓団の入植・生活・撤退

大陸に夢を託して入植した開拓団であったが、入植から現地の生活、そして昭和 2 0 年の終戦による撤退から帰国までの状況を見ると、満州開拓という遠大な国策は、多くの犠牲者を出し悲惨な結末に終わった。特に終戦による現地人の反抗や逆襲、ソ連軍の侵攻に伴う略奪や婦女に対する暴行は、さながら地獄であった。また、撤退から本国帰還に至るまでの生活では、飢えや寒さや発疹チフスなどの疫病のために、子どもや老人の多くは死んでしまった。こうした飢えをしのぐため、やむなく現地人に幼児を預ける者、現地に残って現地人と結婚する女性も多くいた。

## ウ：満州開拓団員の手記

### 興和開拓団（美並村）体験者の手記

本郡では昭和17年当時の大東亜省より満州開拓特別指導郡指導を受けて、郡内各町村の役場、産業組合、農業会が主体となって郡上拓殖協会を設立した。その目標は、郡民一体となって満州大陸の広野に、第二の郡上の分郡を建設して王道楽土を築き、併せて郡上の人口の過密の解消と食糧増産に寄与することであった。

（中略）

この地区は、北満の北西より西へ汽車で約一時間、克山県の県都である克山街より更に南へウクル河を挟んで約一時間の所である。流域一帯の排水溝をつくり、道路を盛り上げて整備して、原住民より買収した耕地と未開発の肥沃な広野であった。

（中略）

希望に胸を膨らませ大陸農法の機械営農に慣れた頃は、太平洋戦争も敗色濃厚な末期状態となり、団員の中堅の多くは召集令状を手に出征した。8月になるとソ連軍の参戦が始まり、加えて原住民の不穏な動きが現れ始めた。

8月15日正午、昭和天皇陛下の玉音を伝えるラジオ放送を耳にし、はじめて敗戦の現実を知った。原住民と我々の勝者と敗者の立場が一転し、外地において真の戦争の悲惨を味わい、引き上げまでの難行苦行が始まった。

（中略）

...成人男子の生き残った家庭はやむなく満人のここの家庭へ疎開して、それぞれに使役に労働に商売にと、その日その日の糧を求めてただ生き延びるのが精一杯であった。

（中略）

満州開拓という国策のもとに興和団入植者総数290名中180名の尊い犠牲者と12名の行方不明者を残し、後ろ髪を引かれる思いで100余名の生き残りの団員は、夢に見た故国日本にたどり着いたのである。

### 開拓団（大和町）体験者の手記

私は昭和19年5月に満州へ行き、21年までおりました。当時満州に郡上村をつくるということで、どうしても部落で一人満州へ行けということでした。なかなか行き手がないので、推進委員と班長を選挙で決め、その人たちが中心になって、お寺で10回以上も常会を開き、家がある者でも長男でも、強制的に行かされることになり、私が選ばれました。.....満州国は日本がつくったもので、満人は開墾していないところへ追いやって、そこへ日本人が入ったのです。（中略）

昭和20年8月15日の終戦の日、克山の町から5里ほど離れた所へ、米を買い出しに行きました。毎月一回米の買い出しに行っていました。米を受け取ったところで終戦の玉音放送が入りました。満人の馬車を頼んで米を積み、一晩中不寝番をしました。翌日米を船に乗せようと思ったら、一俵5円だった船賃が100円になっていました。日本の巡査はどうにもできず、満人の巡査が船を選んでくれました。（中略）

船が川の真ん中まで来たら、満人の船頭が船を止めて言うことを聞かなくなり、持ち物をよこせと言いました。そこで米を一俵やって岸に着けてもらいました。陸へ上がったところで、団から馬車が迎えに来ていましたが、歩いていくとき、満人の子どもたちが唾を吐きかけてきました。（中略）

8月20頃、...新京（長春）まで来て、兵隊官舎に入りましたが、丈夫な人は現地で召集になりシベリヤに連れて行かれましたが、隊から逃げていった人もありました。ロシア人が来て金を出せといいましたが、.....ソ連兵は両手を挙げさせ腕時計や万年筆を奪っていきました。



満蒙開拓、琿春開拓団（朝日村役場提供）



拓魂碑（八幡町城山公園）

「生徒にとって身近な題材を教材化することについて」

新学習指導要領の趣旨を実現できるように世界史Aの授業改善を試みた。身近な題材を扱うことで生徒の興味・関心を高めようとしたが、世界史は授業で取り上げることができる身近な題材という点では、日本史に比べるとあまり多くはなく、教材化するには工夫が必要である。

そこで、事例・において、歴史の概観を通じて全体像を把握させてから、生徒の関心を喚起させた。その際、空間と時間の関係（歴史の縦軸と横軸）に留意させ、事例では歴史地図や年表を、事例では、データからテーマ図（統計地図）を作成した。その後、自己作成資料の分析・発表を行い、生徒の関心が身近な題材に向けられるように工夫した。生徒は作業学習を楽しんだり、話し合いを通して多くの意見を持つようになったが、生徒任せにならずに的確に指導ができるという点では、まだ課題が残っている。

事例・においては、学習指導要領の「日本の高校生の学ぶ世界史」を「郡上の高校生が学ぶ世界史」と置き換えて、郡上発信の世界史授業を実践した。国際理解を深めるためには、自国の歴史・文化の理解は欠かせないので、日本史との類似性を意識しつつ、「馬」と「満州開拓団」を題材としてみた。事例では、中国北方の遊牧世界と岐阜県の郡上地域を、「馬」を媒介にしてダイナミックに結びつけ、遊牧民の生活や農耕社会への侵略について考察を深め、事例では、地域の視点で戦争を見つめ直すことを目指した。生徒は興味・関心を示したが、豊かさに慣れた現代の高校生には戦争を実感するのは難しかった部分もあったようである。

以上4つの事例案を提示したが、取り上げた題材にはある程度工夫はできたものの、新しい課題である評価の方法やそれをいかに指導にフィードバックするかという点や、生徒が主体的に学ぶことができる学習を実現するという点については、まだまだ課題が山積しているといえる。

ただ、事例・の実践では、「郡上踊り春駒の謎」・「平家物語の磨墨は本当に郡上の産か？」・「郡上高校校訓エピソード」・「中国残留孤児がなぜ誕生したのか」・「日本と騎馬民族国家」など、地域的话题を確実に教材化することができた点で、大きな収穫があった。